

よっ葉だより

2023年
2月13日号
No.731

◆新型コロナウイルス感染症対策たすけあい募金◆



栃木県 860
群馬県 861
茨城県 862



みんなで集めた落ち葉が土の力になるよ!

1月21日(土) 秋山さんの落ち葉さらい     



作業中に、何を見つけたのかな?



米ぬかと石灰窒素、ホースで水をかけたら
踏んで!踏んで!踏んで!

深夜に吹いていた強風が嘘のように穏やかな青空のもと、下野市薬師寺の秋山さんの里山で落ち葉さらいを行いました。組合員を募集しての開催は3年ぶり。子ども達もたくさん参加して総勢60名で汗を流しました。

秋山さんの里山は広く、三方が常緑樹林にかこまれた雑木林です。積もった葉っぱは深さ10センチくらい。熊手で落ち葉を集める人、シートに載せて運ぶ人、うんとこしょと載せる人...落ち葉にすっぴり入ってニコニコ顔の子ども達の姿もありました!

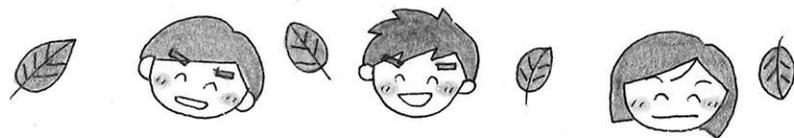
集めた落ち葉は、秋山さんが米ぬかと石灰窒素をまぶして、ホースで水をかけて湿らせます。「米ぬかは、微生物の栄養になるんですよ」と秋山さん。微生物の力で約3年熟成させると、黒くてフワフワの腐葉土に生まれ変わります。「くらら」でご案内している秋山さんのほうれん草や小松菜にも腐葉土の栄養がたっぷり詰まっています。秋山さんの野菜のやさしい味は、山の恵みでもあるなあと実感しました。今回はECO山本ファームのさつまいもで焼き芋にも挑戦! 焼き上がりに時間がかかりましたが、参加者の皆さんにお土産としてお渡しできました。

原油高の歴史的な高騰や円安が長く続いています。農業資材の高騰も同様で、化学肥料の供給や価格は厳しい状況が続いています。作物を育てるのに、必要な栄養分を化学肥料に全面に頼るのではなく、里山や堆肥などもともとあるものを循環させて農業に生かすのは昔からの人間の知恵



「煙の下では「焼いも」準備中です!」

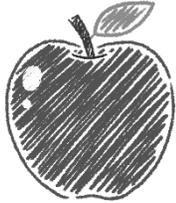
です。里山を資源として生かすには適度に人の手が入ることが必要です。耕作放棄地が地域の問題になっていますが、自然と人間がバランス良く共生するためにも落ち葉さらいは大きな意味があります。



農業体験へのご参加を
ありがとうございました

今年も、JAやささと、和氣ふあーむ、民間稲作研究所、秋山さんのご協力のもと、多くの組合員の参加をいただきました。生産者と組合員がお互いに見える交流の機会です。4月からの農業体験もどうぞお楽しみに!

理事長 三輪



はじめまして津軽産直です くらら3月1週P7でご案内が始まります！ ネオニコチノイド系農薬不使用りんごの案内が春も続きます

青森県でりんご栽培をしている青森県津軽産直組合は、34名の生産者さんで成り立っており、栽培レベルをいくつかのグループに分けて行っています。今回よつ葉生協ではその中でも特別栽培でありネオニコチノイド系農薬不使用のりんごをご案内できるようになりました。

10月20日に訪問した際、沢山の真っ赤なりんごがたわわに実って出迎えてくれました。津軽産直では土作りにこだわり、健康なりんごを栽培することを掲げ、毎年、全圃場の土壌分析を行いそのデータから肥料設計を行っています。栄養を一気に入れず、少しずつ樹の様子を見ながらこまめに行うのがポイント。ここのりんごの葉は厚く、プラスチックのように硬い！。これは樹が健康な証拠。裏面を見てみると、産毛がぎっしり！。このおかげでダニが入りにくくなり、ダニに対する農薬を使う回数が減るそうです。「枝はあまり剪定せず、沢山の葉で栄養を作り美味しいりんごに育てます。」と、社長の斉藤さん。素手でりんごを割り、蜜の入り具合を見せてくれました。また、「異常気象を肌で感じているからこそ、コストよりも環境保全に取り組むことが大事。ここからも農業を考えます。」と、SDGsにも力を入れておられます。

「昨年からは包材、資材等、をプラ製品から紙やバイオマスに切り替え、脱プラスチック、CO2削減など、産地を守る取り組みとしてできることをやっています。元々春先から気温の上昇による鮮度劣化リスクの対策としてアイスボックスを使用しておりましたが、リサイクルできる保冷段ボールに切り替えました。」とのことでした。

新品種の選別・栽培、また新商品の開発を先頭に立つて行う社長の下、津軽産直の挑戦は続きます。国内生産量1位の青森のりんご。お楽しみください。

※ネオニコフリーりんごジュースは一足早く1月よりご案内しております。

(商品部 間中)



「社長の斉藤さん」

りんごの豆知識

よく見かける「ふじ」と「サンふじ」の違いとは・・・

「サンふじ」って、なに??

「ふじ」に袋をかけず栽培したものを「サンふじ」といいます。JA全農長野が登録商標したのが始まりです。表面は太陽(SUNサン)を浴びて育つので鮮やかさは無くざらざらしています。でも甘みが強くコクが出ます。

※よつ葉生協ではサンふじとは言わず無袋(むたい)りんごと表記しています。アップルファームさみず、吉池さんのりんごは無袋りんご。津軽産直も無袋りんごをお届けする予定です。



「箱詰め作業中」



「沢山のりんごがりんご箱に詰められ待機中」

りんごの保管方法

長く楽しみたいなら

- ① ペーパータオルで1個ずつ包む
- ② ポリ袋に入れてしっかりと口を閉じ冷蔵庫へ

(入りきらない場合は温度の低い場所で保管しましょう)

※りんごは低温多湿を好む果物です。保存の理想温度は0~5℃。野菜室ではなく冷蔵庫がお勧めです。エチレングス(成長促進ホルモン)を出すので他の野菜も傷みが早く出てしまうので袋の口をしっかりと閉じましょう！

食べきれない時はカットして冷凍しておけばシャーベットかわりに。電子レンジで加熱すれば簡単焼きりんご風に早変わりです♪



手前味噌作りを行いました。

那須塩原委員会 11月22日(火) 稲村公民館



講師は薄井史子さん。

非常に段取りがよくテキパキとこなし、大事なことはしっかりと教えてくださいます。

前日は準備のために委員で集まって浸水の準備。

当日は、決められた時間内に終わるよう、集合と同時に調理が始まりました。

一人1キロ分の大豆を圧力鍋で煮ていきます。持参した圧力鍋をフル稼働させていましたが、なかなかの量でかなり時間が掛かります。煮るのも大豆を潰すのも、参加者の皆さんと協力して作りました。

効率よく時間を使いつつ、煮ている間などの隙間時間に、薄井さんが味噌作りのコツをいろいろと教えてくださいました。

二時間半でしっかり5キロの味噌が作れました！

容器に詰め終わってからは、家での管理法や注意点などもたくさん聞くことができました。

一人で作るとなると大変な部分もあるかと思いますが、サポートや協力があるとすごく助かり、楽しくできることを実感できた会でした。

(委員 青山)



手づくり味噌の手順を動画で配信中！
鎌田醤油の鎌田専務が分かり易く説明してくれそうです。
こちらからどうぞ♪

圧力鍋
編は
こちらから

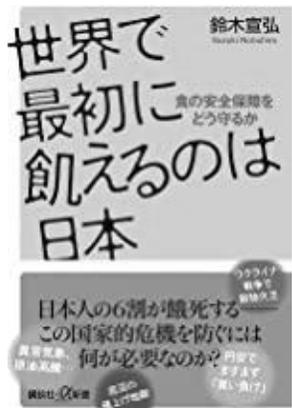


一般的な鍋
編は
こちらから

よつ葉文庫

新刊登録

No. 1292 「世界で最初に飢えるのは日本一食の安全保障をどう守るか」 鈴木宣弘著 講談社+α 新書



出版されたばかりです。衝撃を受ける題名ですが、読んでいく内に納得がいきます。この数年、異常気象による干ばつと洪水で世界のあらゆる国が影響を受けています。

戦争は最大の自然破壊ですが、ロシアによるウクライナ侵攻で穀倉地帯が壊滅的状况に追い込まれています。ただそれ以前から穀物を輸出しなくなった国もあり、自国の食料確保を第一に考えるのは当たり前のことなのです。日本の食料自給率が38%は当たり前どころか、危険の域なのははっきりしています。外的な要因がなければ関心を示さない私たち消費者にも問題があると思います。

食品の値上がりが続く先に見えてくるのは、円安の影響も加わり日本の国が孤立していく姿ではないでしょうか。次世代に間に合うように、予測できる危機を回避するために12%の努力を今から始めましょう。

(会長 富居)

新刊登録

No. 1293 「ルポ 食が壊れるー私たちは何を食べさせられるのか？ー」 堤未果著 文春新書



2019年から3年以上の時間をかけ取材を続けて出版された事実を裏付けした内容です。

食料危機の原因が温暖化による洪水や干ばつの異常気象が主だと思っている人が多いと思います。私もそう思っていました。

温暖化も自然の自浄能力を無視した人間の化学的開発行為の結果とも言えますが、少数の人と企業の独占によって食糧危機がつくられているとしたら、自然災害以上の脅威です。

食料危機を救う目的で遺伝子組み換え技術が開発され、いきづまるとゲノム編集技術、人工肉の研究が推奨されています。現象の裏にある事実と現実を年月をかけて取材された内容は、新聞やマスコミ報道でも知ることが困難です。決して読みやすく理解しやすい内容ではありませんが、それだけ見えないところの現実は入り組んでいるのだと思います。

グローバルな動きの中で私たちは身動きできないのでしょうか？いいえ、日本には私利私欲と縁遠い人と豊かな土壌に恵まれていることを特筆しています。

よつ葉生協が有機農業を積極的に進める原動力となった栃木県上三川町の民間稲作研究所の稲葉光國さん、土の微生物の大切さと種類の数値化の検査を実証してくれた横山和成さん(中央農業総合研究センターを経て現在は立正大学の特任教授)が本書で紹介されています。他にも、何人もの方が紹介されていますが、稲葉さんに勇気をいただいたと述べています。

難しい内容ですが、人としてのやさしさ、他から学ぶ寛容さに満ちあふれた一冊です。(会長 富居)

文化イベント情報

■各イベントのお問い合わせは、直接主催者または連絡先にお願いいたします。

ぐんまふくし映画祭 群馬県6会場上映会

「ほけますから、よろしくお祈いします。～おかえりお母さん～ 2022年新作

ロコミが広がり異例のロングランになった『ほけますから、よろしくお祈いします。』（18）あれから4年。90代夫婦の愛の形を描いた感動の物語がふたたび始まる。

- 料 金 大人 1200円（各会場共通）
子ども（18歳以下）1000円

- 主催/問合せ 栃木県映画センター
TEL 090-9686-8045（高橋）

- 日 時 <上映2回会場>①11:00 ②14:00
3月12日（日）美喜仁桐生文化会館 シルクホール
（桐生市織姫町2-5 TEL 0277-40-1500）



<上映3回会場>①10:20 ②12:30 ③14:40

3月15日（水）藪塚本町文化ホール カルトピア
（太田市大原町505-2 TEL 0277-78-0511）

3月16日（木）高崎市文化会館 大ホール
（高崎市末広町23-1 TEL 027-325-0681）

3月18日（土）利根沼田文化会館 小ホール
（沼田市上原町1801-2 TEL 0278-24-2935）

3月19日（日）三の丸芸術ホール
（館林市城町1-2 TEL 0276-75-3030）

3月22日（水）群馬会館 2階ホール
（前橋市大手町2-1-1 TEL 027-226-4850）

宇都宮

●タイトル 「二つの栃木」の架け橋 小口一郎展 足利鉍毒事件を描く

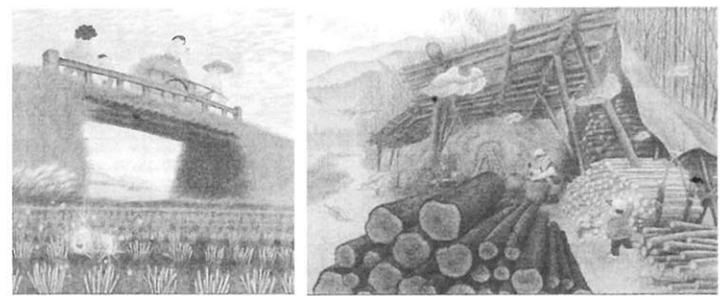
栃木県小山市出身で版画家として活躍した小口一郎（こぐちいちろう、1914-1979）の全貌を、そのライフワークとなった足利鉍毒事件を主題とした作品を中心に紹介します。

- 日 時 1月21日（土）～3月26日（日）
9:30～17:00（入館は16:30まで）

- 会 場 栃木県立美術館 月曜日休館
（栃木県宇都宮市桜4-2-7）
TEL 028-621-3566

- 観覧料 一般900円 大高生600円 中学生以下無料
（20名以上団体割引あり）

- 主 催 栃木県立美術館、下野新聞社



ぼいすて殿様

炭焼きのおじさん

●タイトル
安藤勇寿「少年の日」
ある冬の日展

- 日 時 4月23日（日）まで

- 会 場 安藤勇寿「少年の日」美術館
（佐野市御神楽町623-1）

- 問合せ TEL 0283-67-1080 FAX 0283-67-7030
※料金、休館日等、詳しくはお問合せください。

新型コロナウイルス感染症対策たすけあい募金報告（2月1週分）

ご協力ありがとうございます。

組合員さんの助けあいの気持ちが広がっています（単位：円）

栃木コロナ支えあい基金（860番）	3,200
群馬コロナウイルス対策募金（861番）	2,100
茨城誰かのために募金（862番）	1,000
合 計	6,300

共同購入注文書の該当番号に数量をご記入ください。

WEB注文の場合は、左側【企画商品・募金】内の【募金関連】をクリック。
一口100円の募金になります。

東日本大震災・東電原発事故での支援金 募金報告（2月1週分）

ご協力ありがとうございます。

組合員さんの温かいお気持ちが今週も寄せられています（単位：円）

放射能から子どもを守る募金（900番）	6,100
震災孤児を支援する募金（910番）	22,700
「有機農業と国産種子」募金（920番）	10,000
合 計	38,800

共同購入注文書裏の「10品以上の記入欄」に該当番号と数量をご記入ください。

WEB注文の場合は、左側【企画商品・募金】内の【募金関連】をクリック。
一口100円の募金になります。

組合員さんの声

「よつ葉だより」に載っていた、茂木町のたけのわ TUNAGUのボランティアに参加して来ました（10/16）。参加の理由とか、作業中にインタビューを受け、よつ葉のリンゴオーナーの取り組みもついでに話しました。お天気にも恵まれ良い汗をかき、楽しい1日でした。

NO.714、P4 県の広報
ボランティア募集の記事
（下野地区 T・Hさん）

ありがとうございます。

夏頃、回り箱のカビの話が、よつ葉だよりに掲載されていました。それ以来、保冷剤など良く洗って乾かすようにしています。穴の部分にカビがついていて、落とすのに手間がかかる時は、「これは昔の私のせいだったのかも」と思って洗っています。

感謝☆
（足利地区 H・Oさん）

ご意見・ご感想をお寄せください。お名前と組合員番号をご記入の上、共同購入注文書またはお手紙でお願いします。掲載の方には粗品をプレゼントいたします。※掲載するにあたって事前ご連絡をすることはありませんので、ご了承ください。

●編集・発行よつ葉生活協同組合 小山市栗宮1223

☎0120-07-1613 TEL 0285-45-9100 FAX 0285-45-9101

HP <https://yotsubacoop.jp/> メールアドレスが変わりました。

よつ葉だよりメールアドレス yotsubadayori@yotsuba-coop.jp



ホームページ



Facebook



Instagram